

# はたししおどり 畑鹿子踊躍

- ◇ 指定日 昭和61年6月25日
- ◇ 所在地 畑
- ◇ 保持団体 畑鹿子踊躍保存会

由来は不明ですが、『鹿子踊躍巻』が伝わっており、慶長19年(1614年)に山城国<sup>やましろのくに</sup>の庄太夫<sup>しょうだゆう</sup>が書いた由来を、小本中里<sup>おもとなかさと</sup>（岩泉町）の佐々木栄蔵が写したものです。

昔は、盆になると田老の水沢や摂待、岩泉町小本などに頼まれて宿で剣舞と鹿子踊りを一晩踊って供養したといわれています。

初めに宿の庭に位牌を出して剣舞の大念仏で仏様を供養し、鹿子踊りを元庭からヒキハまで踊ります。中入り後に、剣舞の扇踊り・高館<sup>たかだち</sup>・綾踊り、鹿子のかかしなどを踊っていました。

演目…（剣舞）大念仏・高館・綾剣舞・扇踊り・湊入り

（鹿子踊）元庭・一番庭・二番庭・三番庭・かかし・大立入り・小立入り・  
入りちがい・宿踊り

